

平成 26 年度 大阪府立吹田高校 学校教育自己診断 集計結果 & 今後の取組み

【はじめに】

平成26年10月末から11月上旬にかけて、生徒、保護者の皆様のご意見を反映し、より良い学校運営に資するため、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中にも関わりませす、概ね7割を越える保護者の皆様からご回答をいただきました。

その集計結果と今後の取組みについてまとめましたので、お届けいたします。

【資料の見方】

吹田高校では、他の大阪府立の高等学校と同じく年度当初に「学校経営計画」を策定し、その実現に向けて、教職員が力を合わせ、学校教育に取り組んでいます。

そこで、今年度の学校教育自己診断の結果等につきましても、その「学校経営計画」とリンクした形で整理しました。

＊「学校経営計画」は本校のホームページ（以降、HPと記します）に掲載しておりますので、あわせてご覧ください

本資料の見方は、以下の通りです。

- ① 【「学校経営計画」の今年度の重点目標】
- ② 【その項目に関わる質問とアンケート集計結果】
- ③ 【アンケート結果に対する学校の受け止め方（分析）】
- ④ 【来年度以降の指導の方向性（対応）】

1 遅刻・頭髪・登下校時のマナー指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	本校では、遅刻居残り指導や遅刻数の少ないクラスの表彰などを通して、遅刻をしないように意識を高めてほしいと考えています。あなたは、毎朝遅刻をしないように意識をしていますか。	1年	76.3%	19.6%	2.6%
		2年	66.3%	24.4%	4.3%
		3年	67.9%	21.4%	2.7%
2	本校では、“交通マナーの向上”のため校内ポスターや交通安全講習会などを行っています。あなたは登下校時に、これらの指導で得た情報を含め“交通マナー”を守るように努めていますか。	1年	37.6%	47.3%	10.0%
		2年	33.3%	47.3%	12.8%
		3年	33.8%	46.0%	13.3%

【学校の受け止め方（分析）】

質問1に対して、全学年での肯定的な回答が約92%、否定的な回答が約8%となりました。多くの生徒が、遅刻をしないための意識を持って行動してくれていることがうかがえます。また一方で、否定的な回答をした約8%の生徒は、遅刻に対する意識が低いことも確認できます。

しかし、遅刻に対する意識を高く持ち遅刻をしていない生徒と意識しながらも遅刻をしてしまっている生徒がいる一方、意識しなくても遅刻をしない生徒や意識が低く遅刻してしまう生徒がおり、必ずしも遅刻に関する意識の高さと遅刻をする、しないがそのままリンクしているとは考えていません。

ただ、今後については、やはり少しでも多くの生徒が遅刻に対する意識を高めていってもらえるような取り組みを進めていくことが重要だと考えています。

質問2につきましても、全学年での肯定的な回答が約82%、否定的な回答が約18%と、“遅刻に関する質問”と同様に多くの生徒が“交通マナーを守る意識”を持って行動してくれていることがうかがえます。

学校経営計画の中での目標である“登下校に関する質問の肯定率80%以上”は達成できたものの、約18%の生徒は“交通マナーを守る”という意識が低いという残念な状況もあります。

今後は、正しい交通ルールや自転車運転時の危険性などを伝えるとともに、少しでも多くの生徒が“交通マナーを守る意識”を高めてくれるように努めていきたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

遅刻や違反行為は、数年前に比べて明らかに減少しています。

本校は、今、生徒指導における一つの大きな山を越え、さらなる規範意識・自律心の定着に向けて、生徒自らの価値観が変化しつつあり、この生徒【発】のさらなる改善をしっかりと支えていきたいと思っています。

しかしながら、一方で、重点指導項目に入っていない化粧やピアスの現状を見ると、保護者の皆様からの否定的なご指摘も多く、残念ながら「ペナルティを課す指導の効果が大きいことは、今のところ否めない」というのが現状だと認識しています。

本校におけるペナルティの目的は、単なる「罰」ではなく、生徒が「本来とるべき行動

やその理由を考える」とともに、教員も「その指導が効果的であるために工夫し、考える」ことにあります。

本校での遅刻者に対する「1,000 字指導」も、「1,000 字を書かせるだけ」ではありません。それよりも、書写前後の教員との対話が大切だと考えています。

めざすところは「じっくりと生徒と話す指導」であり、「生徒自身が自らを律することができる学校」です。学校としては、この意識が決して希薄にならないよう、あらためて全教職員での確認を続けていきます。

生徒の思いを受け止めた上で、今後の人生への展望を持たせることは、今を見直すことにつながります。私たち教職員は、これまでの指導方法の至らない部分を真摯に反省しながら、一定浸透しつつある規範意識を、吹高生の常識として定着させることができるよう、今しばらくは現在の指導を継続することが大切だと考えています。

誰に言われなくても TPO に応じた高校生らしい服装や行動ができるように、また、その毎日の取組みが、希望する自己実現・進路実現につながっていくように、生徒の皆さんの自覚ある行動と創造力に期待しながら、生徒たちと向かい合っています。

一度にすべてを「合格ライン」に引きあげることはできませんが、生徒の現状に向き合いながら、生徒の資質・能力を最大限に伸ばしていける指導を実践していきたいと考えています。

また、遅刻への意識の高まりによって、登校を急ぐあまり、交通ルールの軽視につながることがあっては本末転倒であり、この点には十分に留意しながら、今後も朝の校門指導等を継続させていきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	本校では、生徒が遅刻した場合（通院などの特別な場合を除く）、その日の放課後に居残り指導（書写1,000字＋反省文200字＋生徒との話し込み）を行っております。これにより遅刻は減少傾向にあります。これらの指導について、ご理解いただけますか。	68.7%	22.1%	5.3%	4.0%
2	本校では、生徒が髪を染色した場合、保護者にご理解を得たうえで帰宅指導を行っております。これにより、著しく染髪した生徒はいなくなりました。これらの指導について、ご理解いただけますか。	75.2%	17.7%	5.1%	2.0%
3	府立高校では、携帯電話の校内での使用は『原則禁止』となっておりますが、本校では休憩時間などでの使用を含め、校内での使用そのものは禁止していません。この点を踏まえ、授業中に携帯電話を使用した場合（鳴った場合を含む）は、「預かり指導」を行っております。これらの指導について、ご理解いただけますか。	80.2%	16.0%	1.5%	2.3%

【学校の受け止め方（分析）】

本校で行っている遅刻、頭髮、携帯電話の指導について、どの指導内容についても肯定的な回答が90%以上であったことより、非常に多くの保護者の皆様が本校の指導にご理解をいただけていることがうかがえます。

これを受け、これらの指導を継続的に展開するとともに、より一層多くの保護者の皆様にご理解いただけるよう、指導の経過や経緯についてもご連絡・ご報告することを心掛けていきたいと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

遅刻や違反行為については、吹高生の当然の規範としてしっかりと定着するまで、今しばらくは現在の指導を継続することが必要だと思っています。指導に際しては、もちろん、ペナルティを課することが目的ではありません。現在も心がけていることですが、ペナルティを課したから“はい、これで終わり”ではなく、時間を惜しまずにしっかりと説諭を行い、なぜ指導を受けているのか、該当生徒にきっちりと納得させること、安易な指導にならないことが不可欠だと認識しています。

遅刻がさらに減少し、朝一番から気持ちよく爽やかに授業がはじまる。

誰に言われなくてもTPOに応じた服装や行動をとることができる。

そんな風に、吹田高校が一日も早く、「ペナルティがなくても、生徒自らが自分で遅刻や違反行為を律していくことが当たり前」の学校となるよう、今後も丁寧な指導を続けていきたいと考えています。引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2 学校行事・部活動のさらなる充実・活性化

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
3	あなた自身は、文化祭、体育祭、遠足などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか。	1年	50.5%	36.9%	10.0%	2.6%
		2年	44.0%	37.8%	12.7%	5.4%
		3年	50.0%	32.3%	12.7%	5.0%

【学校の受け止め方（分析）】

全学年での肯定的な回答が約84%となり、H25年度（約84%）、H24年度（約84%）と概ね横ばいである。ここ三年間で特徴的なことは、1年生の「そう思う」と回答した生徒が50%もいたこと。これはここ三年間で初めてのことである。理由は色々考えられるが、今年度の文化祭をひとつの例にして考えてみると、1年生からは、今までにない新しいアイデアの出し物が多く見られ、「何か楽しいことや変わったことがしたい」という前向きな姿勢が例年の一年生よりも多く感じられた。その下支えとして、しっかりとした1年担任団のサポート体制があったことも、数値を上げた一つの要因であると受け止めています。

今年度は、体育祭・文化祭における事前準備や当日の様子は、学校全体として昨年度に比べやや活気に欠ける印象でした。目標を持って自主的な活動を展開できていたクラスもあれば、どうしても人まかせになってしまうことで、最後まで一体感を持ったクラス活動が出来なかったところもありました。

例えば、あるクラスでは放課後に全員が教室で準備をしていたり、他のクラスではクラス代表だけで教室に残り、今後の準備計画を立てていたり、また他のクラスでは、クラス内で協力する意識がやや不足していたせいか、準備をするために放課後に残る生徒が少なく、思うように準備が進まなかったりしました。

どのようにして準備を進めていけばよいのか戸惑うクラスもありましたが、教員の助言やサポートを受けながらも、与えられた時間の中で、自分たちで考えながら準備をしていくことが大切であると考えています。このように、生徒が自らの力で学校行事をつくる機会を多く設けることで、「自主性」を引き出し、「自分たちの学校行事は、自分たちでつくる」という意識を育てたいと考えています。そして、自分たちの手で作った学校行事をもっと好きになってもらい、ひいては、吹田高校という学校をもっと好きになってもらいたいと考えています。

今年度、新しい取り組みとしては、体育祭におきまして、生徒会執行部と応援団幹部と体育委員長で構成される「体育祭リーダー会議（仮）」を立ち上げ、体育祭前の準備期間や体育祭予行、そして本番において、それぞれで情報共有しながら、連携を図りました。これも試行段階ではありますが、今まで別の系統として活動していた生徒が、一つの目標を達成のために繋がりをもち、連携する様子は、素晴らしかったと感じています。

否定的な回答をしている生徒が、依然として 15%程度いることも事実です。学校行事に対する生徒の意識は年々向上しているものの、学校行事に前向きに参加できていない生徒がいることについては、課題として認識しています。生徒自身の学校行事に対する「好き・嫌い」はあるでしょうが、クラスなどの集団の中で他者と協調しながら、自主的かつ積極的に学校行事に取り組もうとする姿勢を「育む」ことも、学校行事の教育的意義の一つですので、それを達成できるための働きかけをしていかなければならないと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を通して人間的に成長する。これが、学校行事で一番大切にしなければならないことだと考えています。

もちろん、「高校生活の楽しい思い出をつくる」という役割も非常に大切であり、そのかけがえのない思い出はいつまでも心の中に残るものだと思います。

しかし、それだけに留まるのではなく、学校行事という貴重な体験や活動を通して、集団で物事を進めていくために必要な協調性を知り、壁にぶつかったときの問題解決能力やコミュニケーション能力を磨き、他者の優しさに気づく。

こういった、普段の学校生活だけでは育みきれない力や様々な気づきを、学校行事は与えてくれます。

ときには悩み、苦しみ、辛くてしんどい瞬間もあるかもしれませんが。しかし、その一つひとつの経験がひとりの人間として成長していく上での糧になることを、信じて疑いません。そのための方法として、例えば、体育祭・文化祭の「運営」に携わる生徒を少しずつ増やしていくことを考えています。これまでは、自身が所属するクラスやクラブ等の団体の中での活動や準備が主たる活動でしたが、従来は生徒会執行部が担ってきた、体育祭・文化祭全体に寄与するような活動や準備についても、他の多くの生徒にも担ってもらおうと考えています。実際、今年度は体育委員に競技運営補助をお願いすることで、学校行事を自分たちでつくりあげていく、そういう意識を持ってもらいたいと考えました。まだ試行の段階なので、精度は低かったですが、方向性としては間違っていないと思います。

また、今年度は、学校行事の企画・運営において、生徒会執行部の生徒が大いに活躍してくれました。今後の方向性としましては、全校生徒の代表である生徒会執行部を中心として、より多くの生徒が主体的に学校行事に関わっていけるよう、取り組んでまいりたいと思います。確かに生徒にとって困難な部分は増えるかもしれませんが、これらの活動が「自主性」の育みを促し、生徒の皆さんが人間的に成長していくための糧になることを願っています。結果的にうまくいかず、失敗であるように思えても、そこから何かを学ぶ取ることができれば、長い目で見たときに、その生徒にとってはプラスの経験になるのではないかと思います。遠慮なく失敗できる、それも学校の良さのひとつではないでしょうか。

今後とも、生徒の皆さんが、ひとりの人間として成長できるよう、我々教職員が一丸となって全力でサポートしていきたいと考えています。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
4	学校の部活動は活発だと思いますか。	1年	30.4%	42.4%	19.1%	8.1%
		2年	22.6%	39.7%	23.7%	14.0%
		3年	30.9%	47.1%	10.8%	11.2%

【学校の受け止め方（分析）】

数値だけを追いかければ、肯定的な回答は71%で、昨年度の68%に比べ若干増加はしているものの、基本的には、昨年度から「70%程度で横ばいの推移」と捉えています。部活動の加入率は44.6%（H24）⇒48.4%（H25）⇒46.9%（H26）と推移しています。（5月時点での数値）

「部活動が活発かどうか」という質問に対しての生徒の判断基準は、活発なクラブの様子を、【見たり・聞いたり・感じたり】しているかどうかだと思います。自身が所属するクラブ活動に一定の満足感を得ている場合は、その活発な活動を【見たり・聞いたり・感じたり】しているので、「活発である」と答えるでしょうし、クラブに加入していない生徒であっても、クラブに加入している友人やクラスメイトの精力的な活動を【見たり・聞いたり・感じたり】していれば、「活発である」と答えるかもしれません。

「活発でない」と答える生徒の多くは、精力的に部活動に励んでいる友人が身近にはいないので、クラブ活動の様子を【見たり・聞いたり・感じたり】しておらず、そのような答えになるのかもしれません。

いずれにせよ、「本校の部活動をより活発化させるためには」という根本的な議論も当然必要ですが、同時に、現在、活発に活動しているクラブの様子を、多くの生徒に知ってもらうような取組みも重要だと感じています。その取組みを進めることで、クラブに加入していない生徒も、クラブ活動の様子を【見たり・聞いたり・感じたり】することができるのではないかと思います。

今年度より、加入率だけではなく、クラブに加入している部員のクラブ活動に対する満足度についても、調査しています。これは、「量」だけではなく、「質」の部分についても、見ていくことが重要ではないか、という考え方からです。その調査の結果、83%の部員が、現在の部活動に満足しているという結果になっています。これは、部員が一定程度、今の部活動に満足してくれている証拠のひとつではないかと受けとめています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

クラブ部員の活動の様子を、他の多くの生徒に知ってもらうための一つの手段として、昨年度より、「生徒会新聞」の発行をスタートしました。これは、生徒会執行部が中心となって作成し、吹田高校のあらゆる情報を発信するもので、クラブ情報（試合結果、最近の活動など）をはじめ、生徒会執行部の取り組み、学校行事の紹介など、吹田高校生の情報交換ツールとして活用できるのではないかと考えています。当然ですが、クラブ部員同士の情報交換としても活用できます。今年度では、大会等で結果を出したクラブへのインタビュー記事などを掲載しました。このように、他の生徒の活動に関心をもてるような機会を、生徒の皆さんに提供できるような取組みを推進していきたいと思っています。

また、クラブ部員の満足度が向上するような、活動環境の整備や物品等の支援も随時行っていきたいと考えています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
8 本校の文化祭、体育祭などの行事は活発だと思われますか。	39.1%	48.4%	9.9%	2.5%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が約88%となり、H25年度（約81%）、H24年度（約82%）と比較すると、今年度は、数値の上昇がうかがえます。ここ3年間での数値の移り変わりとしては、否定的な回答と「どちらかといえばそう思う」の回答が減少し、その分が「そう思う」の増加分となっています。学校行事の中身が劇的に活発化しているわけではない状況から考えると、こういった数値の変化は、おそらく「保護者の学校行事に触れる機会が増えた」ことが、ひとつの要因ではないかと考えます。現に、今年度の体育祭・文化祭の保護者来校数は例年より多く、保護者の学校行事への関心は、高まっていると言えます。また、PTAによる活動（PTA 賞など）も一助となり、生徒を通じた間接的な形も含めて、より多くの保護者に学校行事へ触れて頂けるようになりました。その結果として、生徒の頑張っている姿が今まで以上に伝わるようになり、「そう思う」との回答が増加したのではないかと考えています。

しかし、体育祭や文化祭に来られた保護者の皆様の「生の声」を聞きますと、まだまだ運営面においても、生徒の意識の面においても、改善すべきところがあると認識しております。

生徒がイキイキと活動している姿と、学校が全体として盛り上がっている雰囲気、行事の活発さを示す「ものさし」だと考えていますが、それらをさらに活性化するためには、校内での生徒と教職員が一体となった取組みを進めていくと同時に、その様子を保護者の皆様にも発信できるような取組みが今後も継続的に必要だと感じております。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を活発にしていくキーワードは「自主性」であると考えています。そして、生徒が自らの力で学校行事をつくっていくという意識を育むことが、さらなる学校行事の活性化を促すポイントだと思います。

また、行事の様子を保護者の皆様にしっかりと情報発信していくことで、生徒・学校・保護者を繋ぎ、それぞれが関わり合いながら学校行事をつくっていくという意識もまた学校行事の活性化には大切なことだと考えています。

近年、めざす学校像の一つとして、「開かれた学校」という言葉がよく使われるようになりました。学校を、物理的にも意識のうえでも閉鎖的な空間にするのではなく、地域にも家庭にも開かれた学校にしていくことで、学校・地域・家庭が連携しながら子どもたちを育てていきたい。そんな想いが「開かれた学校」という言葉には込められています。

吹田高校が、より「開かれた学校」になっていくためには、まずは生徒が過ごしている学校の様子が実際に見えること。そして、保護者の皆様が、その「開かれた雰囲気」を肌で感じてもらえるようにすることが重要だと思います。

これらを実現するために、まずは、生徒たち自身が充実していると感じられるよう、学校行事としての「中身の充実」を図り、保護者の皆様には、実際に体育祭・文化祭を見に来ていただけるよう、丁寧なご案内に努めるとともに、メルマガやホームページをさらに活用して、生徒たちのイキイキとした表情や言葉などのリアルな学校生活の様子をご家庭でも見て、感じていただけるよう、「丁寧な情報発信」を心がけたいと思っています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
9	本校の部活動は活発だと思われますか。	24.8%	51.7%	18.6%	4.8%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的な回答が76%で、H25年度75%、H24年度75%という経緯から見て、ここ三年間で特に変化はありません。

本校の部活動は運動系13、文化系13、同好会3つ、合計29種類あります。競技の特性や部員の状況を踏まえながら、個々のクラブの活動方針に即して部活動が実施されており、平日・休日を問わず、練習や試合をしているクラブもあれば、「平日のみ」や「週2日」というような活動形態をとっているクラブもあります。

こういった活動形態の違いがありますので、お子様がどのクラブに加入しているのかによって、保護者の皆様の感じ方もまた少し違ってくるように思いますが、その中で、昨年度に引き続き、肯定的な回答をいただき、ありがとうございます。

一方で、クラブ加入率から見ますと全体で依然として約5割と、まだまだ低い数値となっています。1年時には、毎年多くの生徒が入部はするものの、途中で辞めてしまう生徒が多いのが実情です。その結果として、年度当初の加入率が年間通して維持されるのが難しい現状にあります。ただ途中で辞めることなく、現在も継続的に活動をしている部員は、それぞれの目標に合わせて、一生懸命取り組んでおります。

部活動に対する生徒の考え方も様々で、前向きに取り組みたいと考える生徒もいれば、「しんどいからしたくない」、「遊びたい」というように部活動に関心がない生徒もいます。その他のさまざまな事情で、部活動をする余裕のない生徒もいます。

こういった状況の中でも、学校としては可能な限り、部活動へ参加してもらい、その活動を通して、人間的に成長して欲しいと考えています。

課題としては、部活動を前向きに捉えていない生徒に対して、部活動の良さをどのようにアピールできるのか、そして、一度入部した生徒を卒業まで続けさせるにはどうしたらよいのか、具体的なアイデアを出すことですが、これは教職員だけでなく、部員と共に考えていくべきことだと認識しています。

また、保護者の皆様に対しては、本校の部活動の様子をよりよく知っていただけるような情報発信に努めていかなければならないと思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

多くの生徒が「入りたいな」と思える部活動づくりと、部活動の良さを継続的にアピールしていくことが大切だと感じています。

初めての高校生活、初めての部活動。迷っている新入生の背中を押してあげられるようなアプローチを考えていきます。

また、4月の部活動勧誘の時期だけでなく、年間を通して定期的に部活動参加への呼びかけを継続していきたいと考えています。実際の部活動の様子を見てから、入部するかどうかを判断したい生徒もいるようですので、次年度は「途中入部」の推進にも取り組んでいきます。

部活動の情報発信についても、メルマガやホームページをより一層活用しながら、保護者の皆様にも部活動の様子をお伝えしていきたいと思います。また、昨年度より発行をスタートいたしました、「生徒会新聞」（クラブ情報など、様々な学校情報を発信するツールとして、生徒会執行部が作成）を通じて、クラブ活動の様子を少しでも多くの生徒に伝えていき、それをきっかけにしてクラブ活動に興味を持ってくれる生徒が増えることを期待しています。他には、「クラブ掲示板（仮）」を定期的に設置し、クラブに関する情報発信ツールを増やしていきたいとも考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

3 教育相談・支援教育の充実

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
5	あなたは、本校に悩みを相談できる場（先生や部屋）があると感じていますか。	1年	14.1%	41.8%	22.2%
		2年	23.7%	40.3%	17.0%
		3年	25.3%	33.5%	26.1%

【学校の受け止め方（分析）】

今年度、「学校に悩みを相談できる場がある」と回答した生徒は、1年生が55.9%、2年生が64.0%、3年生が58.8%であり、昨年度と比較すると、1年生で11.6%、2年生で19.7%、3年生で17.9%増加しました。

教育相談・支援教育については、担任を中心とした日常的な相談体制に加え、月曜日から金曜日までの昼休みと放課後、「みかんルーム（教育相談室）」に保健部担当教職員が詰め、生徒が気軽に相談ができる体制を築いてきました。また、今年度は、よりよい人間関係を育むために、コミュニケーションスキルの向上を目的としてスクールカウンセラーを講師とする心理学入門講座もあわせて実施しました。

もちろん、緊急の際には、いち早く、いつでも相談に乗れる体制を保健部教職員中心に常時設定してきました。保健部教職員以外にもスクールカウンセラーが毎月1～2回来校し、生徒・保護者・教職員の面接、スーパーバイズ（教育相談・支援教育を総合的に運用する役割）、コンサルテーション（専門的な診断・鑑定）に当たってもらっています。

9年前にこの体制を組んだ当初は、みかんルームへの来室者も少数でしたが、徐々に相談件数も増え、生徒の皆さんの心身の健康の充実に役立っていると感じており、引き続きさらなる充実に努めたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

安全で、安心して学ぶことができる環境づくりが、とりわけ近年の学校においては必要不可欠なものという意識が、ようやく社会的にも定着してきました。

生徒自らの持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談・支援教育の果たす役割は、ますます大きくなっていくものと推察されます。

おかげさまで、本校の支援体制、支援に対する教職員の意識は極めて高く、安心して相談してもらえる環境を整えています。

今後もさらに、これらの実践を充実させ、生徒の皆さんが悩みをより気軽に相談でき、また、一歩進んで積極的に心身の健康を増進できるスキルを身につけ、学校生活を充実したものであるといけるよう努力していきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
4	本校では、「いじめ」や「暴力」のない学校づくりに向けて、生徒が気軽に悩みを相談でき、安心して学校生活が送れるよう、保健室はもとより「みかんルーム」（生徒相談室）を設けるなど、きめ細かな教育相談体制の充実を図っています。このような取り組みは、これからもさらに充実させるべきだと思いますか。	81.0%	16.1%	1.8%	1.0%
5	お子さんの心身の健康について、連絡・相談したいことがある場合、気軽に先生に相談でき（できると思われ）ますか。	32.4%	45.5%	17.9%	4.2%

【学校の受け止め方（分析）】

今年度、97.1%の保護者が教育相談体制充実の取り組みを期待してくださっており、77.9%の方がお子さんの心身の健康について気軽に相談できると回答してくださっています。また、昨年度と比較するとそれぞれ0.4%、6.1%の増加です。

教育相談・支援教育については、生徒の高校生活あるいは人生設計における多様なニーズや不安等に適切に答えることができるよう努めています。

担任を中心としたすべての生徒への日常的な支援体制に加え、定期的な支援会議の開催、ケースによっては関係諸機関との連携を図りながら、特別委員会等の校内組織での支援を行ってきました。また、スクールカウンセラーや支援学校教職員を講師に招いてのケース会議や職員研修、個別相談も継続して実施してきました。

近年、心身の発達に関わることで課題を有する生徒についても、関係諸機関と連携を取りながら生徒のニーズ、自己実現に向けたサポート体制の構築を図っているところです。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

基本的には、これまで同様、生徒たち一人ひとりの悩みや想いを真摯に受け止め、それぞれのケースに応じたきめ細かな対応に心がけたいと考えています。

また、より多くの教職員が多様な課題のある生徒にしっかりと寄り添えるよう、ケース会議や職員研修、個別相談等の機会も継続して設定し、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていきたいと考えています。

加えて、社会状況の急激な変化に伴い、生徒たちの課題がより複雑化する現状を踏まえ今後もさらに、関係機関並びに保護者の皆様とも連携を深めながら、教育相談、支援教育の進化・充実に努めてまいりたいと考えています。

保護者の皆様におかれましては、今後も引き続き、お子様に関わってお悩み、お気づきのことがございましたら、お気軽に学校までご一報いただきますよう、お願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

4 互いを認め合える集団づくり

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	学校は皆さんに、男女平等や性差別、障がい・障がい者に対する正しい理解など、人権に関して学ぶ機会を大切に提供していると思いますか。	1年	19.4%	46.4%	7.6%
		2年	24.5%	43.9%	9.9%
		3年	20.6%	47.9%	12.8%
7	学校は、「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応してくれていると思いますか。	1年	15.9%	49.7%	9.5%
		2年	21.1%	41.3%	13.0%
		3年	19.4%	44.2%	14.7%

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的意見が項目6に関して1年生(+4.1%)、2年生(+8.2%)、3年生(+12.2%)
項目7に関して1年生(+11.7%)、2年生(+12.1%)、3年生(+10.8%)であり、いずれの項目、学年においても増加しました。

項目6に関しては本年度より全学年で年間LHR計画の中に位置付けて人権HRを設定しており、生徒の発達段階に合わせた人権学習を実施していることが要因と考えられます。生徒の肯定的回答が昨年度6割程度から7割程度に増加したことは望ましい傾向であると考えます。しかし、3割程度が依然として否定的な回答をしている現状は改善されなければなりません。そのため、各学年と協力し、人権HRのさらなる充実を図っていく必要があります。

項目7に関して肯定的回答が大きく増加しているが、これは本校独自の「生活と人権に関するアンケート」による実態把握や、その後のきめ細かな対応によるものだと考えられます。生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、本校独自の「生活と人権に関するアンケート」の内容、実施時期、回数に関しても改善に努めていき、さらに迅速で効果的なものにしていく必要があるととらえています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学ぶ機会の提供について、今後は現状(肯定的評価7割)をさらに改善するために、ホームルームや総合的な学習の時間を活用した取り組みを進めてまいります。学年進行も考慮した長期的計画に基づき、講演やロールプレイ等も取り入れ、人権教育が生徒にとってより身近なものとなり、バランスの取れた人権感覚の育成をめざしてまいります。

「いじめ、暴力を学校は見逃さず対応しているか」については、全学年を通じて肯定的評価をもっと得られるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な関わりをさらに深めてまいります。府教委のアンケートの「安全で安心な学校生活を過すために」だけでなく、本校独自の「生活と人権に関するアンケート」も有効に利用して、その兆候の早期発見、対応に努めていきます。生徒の中に「学校はどんな問題も見逃さず、生徒の人権を守ろうとしている」という意識が浸透するよう、さらに努力してまいります。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
7	本校では、すべての生徒の尊厳が守られ、基本的人権が尊重されるように、LHRに人権学習を組み入れたり、いじめの実態把握のために「生活と人権に関するアンケート」を実施しています。これからも、このような取り組みを進めていくべきだと思いますか。	69.0%	26.7%	2.7%	1.7%

（新設質問）

【学校の受け止め方（分析）】

肯定的回答が95.7%を占めています。いじめ問題が社会的に取りざたされる中、保護者の皆様は子どもが安心して学校生活を送ることを望んでいることがうかがえます。いじめ対応に関しては府教委のアンケートの「安全で安心な学校生活を過ごすために」に加えて、本校独自の「生活と人権に関するアンケート」において実態把握に努めています。この取り組みは続けていくべきだと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校として引き続き、いじめの兆候の早期発見、対応に努めてまいります。いじめの兆候が見られる場合は当該学年だけでなく、人権教育推進委員会や管理職などが関わり、学校全体の問題としてきめ細かく対応しているところですが、今後も丁寧に続けていく必要があると考えています。また、本校独自の「生活と人権に関するアンケート」の内容、実施時期、回数に関しても改善に努めていき、さらに迅速で効果的なものにしていきます。

人権HRに関しては、本年度より年間LHR計画に位置づけて全学年で実施し、生徒の豊かな人権感覚の涵養に努めているところです。今後も人権HRの質的・量的な改善をさらに努めてまいります。人権HRの質の向上のためには、教職員の豊かな人権感覚が欠かせません。職員人権研修を実りあるものにし、教員が幅広く豊かな人権感覚を養い、生徒の人権HRに還元できるようにしていきたいと考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

5 安全管理の徹底、校内美化の推進と外部機関との連携

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
8	校内は、清掃が行き届いていると思いますか。	1年	9.9%	33.2%	37.1%
		2年	17.1%	27.5%	28.8%
		3年	13.2%	28.8%	31.1%
					26.8%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	校内は清掃が行き届いていると思われますか。	12.1%	51.7%	23.4%	12.8%

【学校の受け止め方（分析）】

今年度、「校内は清掃が行き届いている」と回答した生徒は、1年生が43.1%、2年生が44.6%、3年生が42%であり、昨年度と比較すると、1年生で21.8%、2年生で9%、3年生で15.8%増加しました。

保護者では63.8%の方が「校内は清掃が行き届いている」と答えてくださっており、昨年度と比較するとやはり3.6%の増加です。

このように生徒及び保護者の皆様の校内清掃状態の肯定率が増えたことにつきましては、一つは中央館の3か所のトイレ改修が昨年度完了したことが大きいと考えております。

「吹田高校にきれいなトイレを！」という生徒・保護者・教職員の長年の願いが昨年度、ついに叶い、校内でもとりわけ老朽化が目立った中央館の1階・2階・3階の3トイレの全面改装が終了し、見違えるように美くなりました。その節には、生徒代表として各クラス生徒保健委員と、保護者代表としてPTA保健厚生委員の皆様がよりよいトイレづくりのアンケートにご協力くださり、貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。教職員も、何度も検討会議やアンケートを行い、よりよいトイレづくりに携わることができました。生徒達が「ホテルみたいできれい」「（自分の教室から）遠くてもここのトイレがいい」と、喜ぶ姿を見ることは教職員にとっても大きな喜びであります。

また、日々の通常清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、清掃担当の教職員と生徒による施設設備の安全点検、クラブ員と生徒会執行部、有志生徒によるクリーンキャンペーン、生徒会執行部と生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーン（校内外清掃活動）等の地道な取り組みを継続して行ってきたことも、少なからず影響しているのではないかと考えております。

加えて、玄関前プランターなど、PTAの皆様方が1年を通じて整備してくださっている効果でもあると心から感謝しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

校舎設備老朽化の改善については、学校の努力だけでは困難な面もありますが、府教育委員会にも引き続き計画的な整備を要望し、少しずつでも着実に整備していきたいと思えます。

同時に、生徒・教職員の一人ひとりが「自分の学校・母校」という意識を持ち、清掃に対する意識を少しずつ高めることが、「古いけれど、手入れの行き届いた清潔な学校」につながると考えています。自らの学習環境を清潔に保とうとする意識は、将来の社会生活を行ううえでも大切な意識であると考えます。今後さらに、汚さないこと、汚れやゴミに気づいた最初の人が率先して対処するという意識の定着を図りたいと思えます。自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、継続して指導していきたいと考えています。

今後も、生徒全員が参加できる学校環境美化活動をさらに工夫することで、保護者の皆様がいつ来校してくださってもきれいな学校であり、清掃の行き届いた環境で学校生活を送る喜びを生徒に感じさせてあげることができるよう、粘り強く取り組んでまいります。

引き続き、保護者の皆様にもご理解とご協力をいただければ幸いです。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

6 授業アンケートの活用と授業見学週間の定着

7 授業規範の確立と授業マナーの向上

■生徒へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
9	授業全般について、授業規律(安心して授業を受けられる環境)は保たれていると思いますか。	1年	24.7%	47.7%	19.8%
		2年	22.9%	42.9%	20.4%
		3年	17.9%	49.0%	21.0%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
10	本校では、年間2回(7月・12月)すべての教員を対象とした授業アンケートを行い、授業改善に取り組んでいます。このことをご存知でしたか。	22.7%			77.3%
11	生徒は吹田高校の授業内容に満足(わかる、興味が持てる)していると思われませんか。	12.8%	57.0%	24.6%	5.6%

【学校の受け止め方(分析)】

7割程度の生徒が「授業規律は保たれている」と捉えてくれています。一方で、全学年を通じて約3割の生徒が「授業規律が保たれていない」と実感していることも伺えます。高校生活の基本は授業であり、どの学年・どの授業であっても「授業規律が保たれている」状態が望ましく、生徒の皆さんの意見は重く受け止めさせていただいております。

また、質問11では約3割の保護者の皆様がお子さんは吹田高校の授業に満足していないと感じられていることが分かります。

一般的に、高校での授業はただ単に楽しいだけのものではなく、充実感や達成感を得るためには生徒自身の努力が必要ですが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

そのため、教員の授業力の向上に向けては、これまでから「授業見学週間」(*)を設定したり、生徒たちの生の声を聴くため年に2回の「授業アンケート」を実施するなど、精力的に授業改善に努めてきました。

(*) 教員が相互に授業見学を行い、真摯なアドバイスを交換する機会として、年に一度設定しています。(今年度は11月中下旬の2週間)

しかしながら、昨年度に続き、少なくない皆さんから否定的な回答をいただいたことは、あらためて学校として真摯に受け止め、授業に興味をもたせる一層の工夫や、学習に対して不安がある生徒に対するさらなるケアが必要だと認識しており、早急に改善を図りたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性(対応)】

繰り返しになりますが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

今回の結果を踏まえ、すべての教員が自らの授業技術を磨く必要性をさらに強く自覚し、取り組むことは当然ですが、科目や教科単位で年間の到達目標を明確にして生徒に提示することを充実させ、総合的な授業力の向上に努めてまいります。

一方で、授業はまさに教員と生徒の共同作業であり、お互いが求められる役割と責任を果たすことで初めて「よい授業、興味が持て、分かる授業」が成立します。

授業規律の確立について、生徒の皆さんに自身の行動を見直すこと、また必要な予習や復習をすることなどを、学校としても強く求めてゆきたいと思います。

保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、生徒が、学ぶこと、新たな知識を得ることの楽しさと大切さに気づくことができる授業づくりに、学校をあげて取り組んでいきたいと思います。

また、授業アンケートにつきましては、アンケート結果に基づき授業改善に取り組む学校の姿勢を、さらに丁寧にお伝えさせていただきたいと思います。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
10	基礎学力の向上や1時間目の授業に落ち着いて取り組めることなどをめざして、「朝ガク」を実施していますが、役に立っていると思いますか。	1年	15.8%	35.4%	27.3%
		2年	19.8%	26.8%	28.0%
		3年	15.6%	24.1%	19.8%

【学校の受け止め方（分析）】

各学年の肯定的な意見は、昨年に比べて1年生で20%、2年生で10%、3年生で17%増加しています。しかしながら、全体ではやはり50%前後の生徒が否定的な回答であり、学年が上がるにつれて増加し、2・3年生では否定的意見が半数を上回っております。これらの状況を見るに、生徒の皆さんにもっと「朝ガク」の目的を理解してもらうこと、基礎学力の向上に役立っているという実感を持ってもらうこと等が必要であると捉えています。

「朝ガク」の目的は、大きく2つあります。1つは、まさに基礎学力の向上をめざすことであり、もう1つは、1時間目の授業を落ち着いた環境でスタートさせることです。学校生活を規律あるものとするために、全学年を通じて1時間目の授業が落ち着いた状況の中で開始できるようになったことは、成果だと認識しています。今一度、これらの成果と課題をしっかりと見据え、「朝ガク」の内容について、更なる工夫を重ねてまいります。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

次年度は「朝ガク」のこれまでの成果と課題を整理した上で、学年進行に応じた目標、内容について、さらに検討してまいります。生徒の皆さんが、落ち着いた環境で1時間目の授業に臨めるよう、そして、基礎学力の向上や定着が実感できるよう、各学年進行に応じた朝ガクの「基本ベース」を作成できるよう、具体的検討を行います。

8 三年間を見据えた系統的な進路指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
11	進路希望に応じて、コースや選択科目が選べるように配慮されていると思いますか。	1年 32.9%	56.9%	7.6%	2.6%
		2年 27.0%	51.2%	16.4%	5.5%
		3年 31.0%	45.7%	13.6%	9.7%
12	本校で提供している進路に関する情報や進路ホームルームは、あなたが将来の進路を考えるうえで役立っていると思いますか。	1年 22.7%	52.5%	20.6%	4.3%
		2年 23.2%	46.0%	21.1%	9.7%
		3年 26.3%	45.1%	16.1%	12.5%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
12	本校のカリキュラム(授業科目の配置等)は、お子さんの進路希望に応じたコースや選択科目が選べるようになっていいると思われませんか。	24.3%	66.2%	7.7%	1.8%
13	本校では、お子さんの進路実現に役立つ情報提供や、学力向上のための講習などが適切に行われていると思われませんか。	17.8%	63.9%	16.4%	1.9%

【学校の受け止め方(分析)】

「希望に応じた、コースや選択科目(の設定)」については、生徒からも保護者からも概ね80%前後の肯定的な回答を得、その割合は前年度より増加しました。コースや科目の内容をよく理解し、じっくりと考えたうえで選択が出来るよう、科目選択説明会、進路HR、保護者説明会の連携に留意した効果であると思います。

「進路情報の提供」については、進路HRや各種ガイダンスが役立っているとして70%を超える生徒、保護者が肯定的に回答しており、内容の充実に努めてきた成果が一定程度、表れているものと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性(対応)】

進路指導の充実に向け、お子様の入学から卒業までの3年間を見通した「吹田進路プログラム」(*)の内容をさらに充実させ、科目選択説明会、進路HR、保護者説明会等の日程設定や順序にも留意するとともに、進路HRの内容の充実に努めてまいります。

「進路に役立つ情報も提供」のため、これまでも発行してきた「進路ニュース」をさらに拡充、充実いたします。

また、「進路検討会議」を新設・定例化し、進路実現の妨げとなる諸問題(経済面、健康面等)の早期の掘り起こしにつとめ、進路指導部・担任団に加え、副担任も含めた全教職員で迅速に対応して一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がけてまいります。

(*)現在の進路指導を、今まで以上に組織的・計画的に発展させた新しい進路指導計画のことです。

9 進学講習の定着・発展

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
14	本校では、平成23年度から本校教員による進学講習に加えて、予備校の講師等による実践的な進学講習を導入しました。このことをご存知でしたか。	60.1%			39.9%

【学校の受け止め方（分析）】

「学力向上のための講習」について、外部講師による講習は受験に直結する実践的な内容だということで、生徒からは好評を得ています。保護者の皆様の認知度も、昨年に比べ10%増加しており、進学講習への期待や関心を多くの方が持っていていただいていると感じています。学校としては、保護者の皆様への情報発信を更に充実させ、学校・家庭の総力を結集できる環境づくりが重要であると受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

生徒一人ひとりの進路希望を、進路指導部や担任団だけにとどまらず、できる限り教職員全体で把握するように努め、さらにきめ細かく、より実践的な進学講習等を実施してまいります。

また、各講習の実施時期はもちろんのこと、期待される成果や目標をより具体的に生徒の皆さんに伝え、継続して講習に参加することで、確実に実力を養成できるようサポートしていきたいと思います。また、これらの情報は、保護者の皆様にも確実にお知らせしてまいります。

10 その他

【アンケート項目と集計結果】

■生徒へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
13	本校の教職員の生活指導・進路指導には、先生によってバラつきがあると思いますか。	1年	27.0%	43.1%	21.4%
		2年	36.2%	38.9%	19.2%
		3年	34.2%	42.8%	16.3%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
15	ご家庭で、お子さんが教職員による指導の差(バラつき)を話題にされることはありますか。	7.8%	24.2%	40.2%	27.8%

【学校の受け止め方（分析）】

教職員の指導に対して、生徒の約7割、保護者の皆さまの3割余りの方から「バラつきがある」というご回答をいただきました。この数字は、昨年と比べて、大きな変化がみられませんでした。

あえて「バラつき」という曖昧でネガティブな表現を組み込んだ質問でしたので、いただいたご回答にもさまざまな意味が込められているものと拝察しますが、決して好感を示していただいたアンケート結果ではないと真摯に受け止めています。

とりわけ、日常的な指導において、学校としてきっちり守ろうと生徒たちに求めている規律や、大切な連絡事項等について、例えば、ある教職員は「見て見ないふりをする」が、ある教職員は「きっちりと指導する」という場面や、ある教職員は「丁寧に、思いを込めて伝える」が、ある教職員は「形式的で、はっきり伝えない」というような現状があるとすれば、生徒たちは混乱し、学校の指導全般に対して不信感を抱くことにも繋がってしまいます。

教育は、生徒と教職員の相互信頼という基盤があって初めて成り立つものであり、その信頼関係を損なう危険性については、小さなうちに回避・改善する必要性をあらためて強く感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

社会の移り変わりに伴い、教育課題もますます多様化・複雑化していく中で、学校だけですべての課題に対応することは困難な現状があり、「学校にお任せ」ではなく、まさに、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、育むことが不可欠となっています。

そして、そのような望ましい環境づくりの第一歩は、“目標を共有”することだと考えています。

大阪府立高校では、学校としての「めざす姿（長期的）」や、中期的（3年程度）目標、当年度の重点目標を整理したものとして「学校経営計画」を、さらに当年度の重点目標の詳細を整理したものとして「学校教育計画」を毎年策定しています。（以降、2つの計画を「計画」と記します）

これらは、学校のホームページにも掲載しており、いわば、社会に対する学校としての

「約束」です。

本校では、これらの「計画」の策定にあたって、全教職員が意見を出し合う機会を設けるなど前年度の総括を丁寧に行い、足りないところやさらに改善していかなければならない点を明らかにしたうえで翌年度の「計画」を策定しており、この「計画」の達成に向けて、学校として一定の規律を守り、生徒に対して誠意をもって対応することを、すべての教職員の最低限のミッションとして申し合わせています。

一方で、生徒にさまざまな個性があるように、教職員にもやはり得手・不得手や個性があり、行き過ぎた「一律的な指導」に徹することは、人間同士としての相互信頼が原点であるべき教育において、逆に心の通わないものになってしまうことも危惧されます。

それぞれの教職員により、それぞれの「味」があることは、「彩」のあるしなやかな指導につながるというメリットもあります。山の頂上に至るルートが1つだけではないように、それぞれの教職員がそれぞれの個性と得意な部分を最大限活かしつつ、同時に教職員集団（チーム吹田）として、謙虚に足りないところを自覚・補完しあい、大きな意味での「計画」達成に向けて取り組もうとしていることについては、ご理解を賜りたいと思います。

なお、具体的に指導のバラつきを少なくするには、当然のことながら教職員間の意思の疎通を一層図る必要があります。管理職はもちろんのこと、首席、各分掌（教務・進路・生徒指導・生徒会・保健）部長、学年主任等を中心に、分掌会議や担任会等、各種教職員間の会議において常に問題意識をもって、十分に打ち合わせをする必要があると考えています。

今後とも、保護者・地域の皆様からのご意見やご要望をさらに真摯に受け止め、教職員が一丸となって教育活動に専心してまいります。

お子様への指導に疑問やご質問がございましたら、「計画」自体に対する疑問等については教頭まで、日常の個別の指導に対しての疑問等については各担任、各部長や学年主任まで、小さなことでも結構ですので、お気軽にご連絡やご質問を頂ければ幸いです。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
14	あなたは、学校からの連絡を保護者にきちんと伝えていますか。	1年	33.7%	41.1%	16.3%
		2年	32.2%	39.2%	20.3%
		3年	29.3%	40.2%	16.8%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
16	家庭では、お子さんと学校での出来事などについて話をされますか。	34.6%	41.4%	19.0%	5.0%
17	あなたは、文化祭や体育祭、授業参観、懇談会、進路説明会などの学校行事に参加されていますか。	20.7%	41.9%	26.3%	11.1%
18	学校からの情報や連絡（PTA活動を含む）は、お子さんやホームページ、メールマガジン等を通して把握していただいていますか。	38.8%	38.4%	16.4%	6.4%
19	学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通（意見や要望を聞く機会）をきめ細かく行っていると思われますか。	13.5%	54.4%	26.7%	5.4%

【学校の受け止め方（分析）】

学校での出来事について、7割以上の保護者の皆様が家庭で学校の出来事などの話が出てきていると認識されています。生徒は、約3割が学校からの連絡を保護者に伝えていないと回答していますが、昨年より1割程度改善されています。保護者に伝えなければならないという意識が徐々に増してきているように感じられます。また、文化祭や体育祭等の学校行事への保護者の皆様の参加率が5パーセントほど上昇しました。PTAの役員の皆様からの強い働きかけもありましたが、学校へ関心を示していただいて、お忙しいところ学校へお運びいただき感謝しております。

一方では、約7割の保護者の皆様からは、学校との意思疎通についてきめ細かく行われているという回答をいただきました。家庭ではお子様から十分に伝わっていない部分を、ホームページやメールマガジンなどを通して学校の様子をご理解頂けていることに大変感謝しています。

現在、無断欠席、頭髪、学校内での怪我や成績など生徒に何かあった時には保護者に連絡することを徹底しており、当然のことながら、本校では、学校と保護者の皆様とが協力しながら、生徒の指導にあたりたい、また、保護者懇談会や意見箱の設置など保護者の皆さまとの連携を大切にしていきたいと考えています。

今後もホームページやメールマガジンを充実させていきますので、引き続き、ぜひ忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

今後も、ご家庭でのコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。

また、すでに記させていただきましたが、学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

学校といたしましても、学校での教育活動に、より一層保護者の皆様のご理解・ご協力を賜るため、進路指導、教科指導、テスト、行事等の情報提供をさらにきめ細かく行い、相互の意思疎通を丁寧に行ってまいりたいと思います。保護者の方で疑問や質問がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

また、高校生になると様々な理由で、文化祭や体育祭等の行事で保護者の方が来校されない場合も多いかもしれませんが、ぜひとも学校にお越しいただいて実際に生徒たちが活動している様子をご覧いただければ幸いです。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
20	こども未来専門コースでの保育園・幼稚園との連携をはじめ、吹田市立博物館等地域との連携、大学との連携、クラブ活動での中学校との連携、朝の挨拶運動などを積極的に図り「開かれた学校づくり」をめざした取組に努めています。このような取組は、今後さらに充実させたほうがよいと思われますか。	66.0%	30.5%	2.4%	1.1%

【学校の受け止め方（分析）】

開かれた学校づくりをめざした吹田高校の現在の取組みに対して、今年度も9割を超える保護者の皆様から肯定的な回答をいただきました。吹田高校は開校以来、地域に愛され、地域に開かれた学校をめざして教育活動を展開してまいりました。特にここ数年は、その取組みを強めています。

具体的には、大学や中学校、幼稚園や保育園といった地域の教育施設との交流をはじめ、吹田市立の博物館とも「高博連携」を結び、施設見学等を実施しています。特に、こども未来専門コースの授業においては、地域の教育施設、社会施設だけでなく、地域のボランティアなど多くの方のご協力をいただいています。実際に吹田市立の幼稚園や保育園において週1回の保育実習を行なうことができています。また、進学クラスにおいては関西大学のご協力のもとネックレスセミナーという大学での講義を受けさせていただいています。このような暖かい支援に支えられて現在の吹田高校の教育活動がなされていることを、大変ありがたく思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

これまで取り組んでまいりました地域との交流活動は、これからも引き続きおこなってまいります。また、来年度も、こども未来専門コースにおける「保育実習」を継続します。これは、このコースを選択した生徒が、年間を通して毎週一回特定の曜日に、吹田市内の幼稚園や保育所に朝から夕方まで実習に行く授業です。

今年度は、実習を終えた3年生が「実習体験発表会」を行い、2年生に対して実習を取り組む上での心構えを持たせる取り組みもしました。来年度も、引き続きこのような取り組みを充実させていきたいと考えています。

まさに、地域の教育機関にお世話になるわけですが、「地育地活」の言葉通り、吹田で育てていただいた吹高生が、将来は地元吹田で地域のために活躍できるようにしっかりと取り組ませたいと思っています。

専門コースの生徒だけでなく、吹田高校の生徒全員がこのような意識を持ち、開かれた学校づくりの主人公になれるように取り組みを充実させてまいります。

■生徒へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
15	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	1年	32.3%	40.1%	17.0%
		2年	30.8%	44.1%	15.9%
		3年	34.4%	37.9%	14.6%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
21	お子さんは、学校が楽しいと言っていますか。	37.7%	35.9%	21.4%	5.0%

【学校の受け止め方（分析）】

学校が「楽しいか？」という、少し抽象的な質問でしたが、生徒の約7割、保護者の皆様も約7割の方が「学校が楽しい（と言っている）」という回答で、まずは少し安堵しています。

一方で、2～3割の生徒が「(どちらかと言えば) そうではない」という回答結果でもあります。この割合は昨年に比べて残念ながらあまり変わっていません。

「何か具体的に楽しくない原因があるからなのか？」

「ほかにもっと楽しい居場所があるからなのか？」

「家庭では、あまり学校のことは話題にならないからなのか？」

いろんなケースがあると思いますが、もしも楽しくない場所に毎日通わなければならない状況に陥っているとすれば、これはとても辛いことだと思います。とりわけ、具体的な原因がある場合には、できればお気軽にご相談をいただければ幸いです。

これらの生徒の気持ちを考えると、学校としての取組みにまだまだ改善の余地があることを、しっかりと受け止めたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

ともすれば、社会全体として、刹那的な「その場限りの楽しさ」を求めがちな風潮もある中で、学校としては、ぶれることなく「授業が分かり、学習することに充実感があること、学校行事に積極的に取り組み達成感があること、部活動に一所懸命に打ち込み、高い一体感や爽快感が感じられること、友だちとの人間関係において暖かみを感じ、友情を深めること等——これらのことを実現して『学校が楽しい』ものとなる」というメッセージを、生徒たちに発信し続けていきたいと思います。

学校には、様々な困難や事情を抱えた生徒もいますが、高校生という多感な時期に、学校という場だからこそ学び、身につけることができる、人生の中でも貴重な経験・体験を何よりも大切にできるよう、すべての一人ひとりの生徒がまっすぐに学校生活に取り組んでもらいたいと思います。

教職員といたしましても、今回の学校教育自己診断でいただきました様々なご意見を今後の教科指導、生徒指導、進路指導、学校行事、部活動、教育相談等、すべての学校での取組みに活かし、一致協力して「計画」の完全達成をめざして日々の指導に取り組み、生徒・保護者の皆様の本質的な意味での満足度をさらに向上させるべく努力してまいります。

今後とも、吹田高校の取組みに対しまして、引き続き深いご理解とご協力をお願いいたします。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
22	本校では、平成24年度より、この「学校教育自己診断」のアンケート結果ならびに、学校としての捉え方等をHP(ホームページ)に掲載させていただいています。このような取組みについて、今後もさらに充実させたほうがよいと思われますか。	52.9%	42.2%	3.9%	1.0%

【学校の受け止め方（分析）】

学校教育自己診断（結果・分析・対応）のHP掲載について、90%を超える肯定的な回答をいただきました。本校における「アンケート ⇒ 集計 ⇒ 分析 ⇒ 対応 ⇒ HP 掲載」という本校の取組みが高く評価されたと喜んでいきます。

昨年度よりHPのレイアウトを変え（学校紹介・行事の際の特設ページ新設等）、より多くの保護者の方が閲覧しやすいよう試行錯誤してまいりました。具体的には「トップペー

ジの見やすさの向上（アピールしたいポイントをわかりやすく表示する）」「最高でも2～3アクセス以内で目的のページにアクセスできるよう、アクセス経路の整備」の2点を改善いたしました。

アクセス数に関しては毎日100件を越え、日々多くの方に様々な情報を閲覧していただき、本当に感謝しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

今後も引き続き、学校教育自己診断の取り組みをはじめ、その他多数の情報をより多く閲覧していただけるよう、トップページの充実を図ります。

大阪府立吹田高等学校 平成26年度学校教育自己診断 「自由記述」に対する「受け止め方」「指導の方向性」

はじめに

保護者の皆様から多岐にわたるご意見を多数いただき、ありがとうございました。

それらは、以下のように大きく6つの項目立てをして分類をしました。ただ、紙面の都合上、同じ趣旨のご意見はまとめさせていただいたり、趣旨を損なわないように表現を一部替えさせていただいているところがありますのでご了承ください。何かご不明な点がございましたら、担任までご連絡いただけますようお願いいたします。

1【授業・講習、考査、クラス編成、学力、評価等に関して】

1-1<授業について>

- ・授業中の私語をもっときびしく注意すべき。(1年男子)
- ・担当者によって宿題の量や授業進度に差がある点はいかがなものでしょうか(3年女子)
- ・講習をますます増やし、生徒へプレッシャーをかけていく方がよいと思います。個人の意識が高まれば、周りを刺激し、相乗効果となって全体の学力向上になります。まずは、やる気のある生徒だけ集めてみるのもどうでしょうか。(2年男子)
- ・勉強の楽しさ、成績が上がっていく喜びなどを生徒には語ってほしいです。先生方は明るい方が多いように見受けられますので、生徒の眠気をおこさないような楽しい授業を願っています。(1年男子)
- ・本当によく先生方がしてくださり、ありがたく思っております！うちの子は塾に行っていないので、できれば講習も、もっと宿題なりテストなり多くしていただけるとありがたいです。あと、実力のつく勉強の仕方(英単語の覚え方や問題集・参考書の勉強の仕方)なども、定期テスト以外の時の勉強の仕方も教えていただけるといいと思います。(2年男子)
- ・先生方が子供達の事をよく考え、気持ちをよせた指導が出来ていると思います。学力が低い子供に対して、テストの点数をもっと取りやすく出来る内容のテストや課題を与えて欲しいです。いつも進級出来るか不安でたまらないです。(2年女子)
- ・吹田高校のイメージは良くなってきていると思います。近くは緑も多く場所も良いところなので、もう少し学力がレベルアップしたらいいなと思います。(1年女子)

【学校の受け止め方】

授業は、まさに学校の根幹をなすものであり、教員間の最低限の合意としても、私語など授業態度に問題がある生徒に対しては必ず注意し、整然とした授業に努めることを申し合わせています。授業中の私語により、学ぶ意欲が低下することは十分に考えられることであり、しっかりと学びたいという生徒の声を大切にすることは当然のことです。

また、教員によって宿題の量に差があるというご指摘をいただきました。同一の教科・科目では基本的には、同一の教材で授業を進めており、授業進度や考査範囲については入念な打ち合わせをしておりますが、ご指摘を全教員で共有し、あらためて担当教員による

差をなくすように努めてまいりたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

現在、教員は可能な限り授業開始時まで教室に行くように努め、机上の整理はもとより、携帯電話の注意をするなど、授業開始時の環境整備など授業規律に関しては足並みをそろえて指導をしています。

授業改善に向けた学校の具体的な取り組みとしては、全ての教員の授業について、年に2回（7・12月）の授業アンケートを実施し、生徒の声を受けとめようと努めています。

1学期末のアンケート結果は、2学期以降の授業改善につなげられるよう、個人はもとよりその科目・教科を担当する教員間で分析を行い、それぞれに改善策を打ち出しました。さらに、各教科から出された改善策や工夫を教員全体が共有し、生徒の授業に対する声に応えられるように努めています。

また、「授業見学週間」として、教員が相互に授業見学をする期間を設け、見学後には気づいた点や授業改善に向けたヒントを出し合うなど、互いの授業力向上に向けて、アドバイスを交換する機会も設定するなど、日々授業力の向上に努めております。

また、希望者に対する放課後講習も、各教科が系統的なプログラムに沿って実施をしております。昨年度からは個別自習室でのDVD学習教材も整えて、自分のペースで学習を進めていくことができる環境も整えつつあります。

（今後の対応）

より多くの生徒が授業に興味をもてるように、教員が自らの授業技術を磨くとともに、授業中の私語に対して厳しく、そして粘り強く注意することなど、あらためて、授業と休み時間のけじめをつけ、授業に向かう姿勢を確認します。また、すべての教員が同じように指導できるよう、教職員が一丸となって生徒をバックアップするという意識の向上と、そのための体制づくりをさらに進めていきます。

現在吹田高校では3年間を見通した授業計画を「吹高 CAN-DO リスト」という形に仕上げられるように取り組みを進めています。これを策定することによって、教員によって教え方の特徴・個性はあれども、その年度での学習すべき内容を揃えることができます。授業担当者間では、「CAN-DO リスト」に基づいて今まで以上に入念な打ち合わせをして、足並みを揃えた授業の展開に努めてまいります。

また、進学講習等についても三年間でどのような学力をつけるのかを「吹高 CAN-DO リスト」をもとに、計画的に実施してまいります。実施にあたっては、時期・教科・対象生徒・期待される成果（目標）・具体的内容等、生徒へはもちろんこと保護者の皆様にも丁寧にお伝えしてまいります。

1-2＜進学クラスについて＞

- ・試験の難易度が違うのに進学クラスと普通クラスを併せて順位を競わせる形はおかしいと思う。難易度が違うならばクラス別にすべきではないか。難易度の高いテストを受けた生徒の意欲低下につながらないか疑問に思う。（1年男子）
- ・進学クラスの放課後の補習が必須になればいいと思います。補習の日程が把握できにくいので、メルマガなどに掲載して頂きたいですね。（1年男子）
- ・進学コース（クラス？）が充実したものにできればよいと思います。（2年男子）
- ・進学クラスのさらなるレベルアップ → 大学受験に対応できる実力をつけてやってほしい（2年女子）
- ・クラスを進学クラスと就職クラスで分けて欲しかったです。子供との話しの中で、授業妨害をするお子さんがいると聞いています。（3年女子）

【学校の受け止め方】

貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございます。保護者の皆様の進学クラスへの関心の高さと期待の大きさを示していただいたと受け止めております。今後も、進学クラスの充実に向けさまざまな取り組みを工夫するとともに、進学クラスに関する情報を様々な形で発信していけるよう、工夫を重ねてまいります。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応と今後の対応）

吹田高校では成績順位を競わせるということを行っておりません。考査ごとにお配りしている成績通知票には「クラス順位」が印字されております。しかしこれはあくまで目安であり、順位を競わせる意図をもつものではありませんので、ご理解いただきますようお願いいたします。

最後のご指摘についてはいわゆる「普通クラス」に関するご意見かと思われます。吹田高校では「進学クラス」は単独クラスであり、体育や芸術等の実技科目以外は「進学クラス」の単独講座展開をしております。そして「普通クラス」に関しては3年次で進路に応じた多様なコースを選択することができます。コースごとにクラス分けできるように尽力はしているものの、コース選択人数とクラス数、展開授業等の都合により、異なるコースを選択している生徒が1つのクラスに所属していることがあります。今後もしの環境を整えるべく、クラス編成には細心の注意を払ってまいります。

また、全ての生徒が安心して授業を受けられる環境を作ることは最も大切なことの一つであると考えております。繰り返しになりますが、まずは静かな教室で、しっかりと授業を受けられる環境づくりに努めてまいります。

1-3<その他>

- ・定期試験の返却時には模範解答の配布を是非希望します。解答を導き出すプロセスを考えて、より理解を深めていくために必要だと思います。(1年男子)
- ・配布プリントの整理の仕方や提出方法が教科により異なり、子供にはわかりにくいようです。ていねいな説明をお願いします。(1年男子)
- ・定期考査で欠点を取ってしまうことや、年度の終わりで単位が不足するということは、本人の基本がしっかり出来ていないからであったり、本人にもやる気がない点が多い原因だとは思いますが、ただ、なかなか個人的に先生へ聞きづらい生徒もいると思うので、対象者には先生方から声かけがあれば良いと思います。(2年女子)
- ・匿名で結構ですから、生徒から先生の採点というか評価というか、生の声を聞く機会を設けたらいいと思います。数が多ければ真実性がありますし、先生の通常の姿が見えてくると思います。(2年女子)

【学校の受け止め方】

日頃の吹田高校の教育活動に高い関心を示していただいていると共に、貴重なご意見を頂戴できたものと大変ありがたく感じております。

生徒にとって進級や卒業ができるかどうか、つまり単位の修得ができるかどうかは高校生活の中でも最も関心の高い項目であると考えております。それだけに我々教員は生徒一人ひとりの成績を慎重に丁寧に扱わせていただいております。成績をつける上でも教科担当者間での相談・教科会議・担任会議と多くの会議を経て成績会議を行なわせていただいております。

日頃の指導においても先述の「吹高 CAN-DO リスト」の策定などを通じて担当者間で十分な相談の上、足並みを揃えて指導できるよう努めております。

しかしながら、指導内容の煩雑さやよりきめ細やかな指導の必要性をご指摘いただいたものと受け止めております。今後も教員間のコミュニケーションや生徒とのコミュニケーションを大切に、足並みを揃えたきめ細やかな指導ができるよう引き続き努めてまいります。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（今後の対応）

繰り返しになりますが、年に2回（7・12月）行なわれる授業アンケートにて全ての生徒の意見を受け止める機会があります。結果に基づいて個人や各科目間で振り返りをを行い、授業改善に活かせるよう努めてまいります。

引き続き「吹高 CAN-DO リスト」の策定や授業アンケート、授業見学週間等の機会を通じて教員間のコミュニケーションを大事にし、生徒一人ひとりの現状把握に努め、個々に合った支援方法は何か検討し、教員が一丸となってサポートできる体制を築きたいと考えております。

また、保護者の皆様におかれましては、本校の指導方針や指導内容について疑問に感じた点がございましたら、学校までご連絡いただきますようお願い致します。

保護者の皆様と共にあらゆる方向から生徒一人ひとりをサポートしていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

2【進路指導に関して】

- ・大学進路について教師にあまり知識がない。進路担当の教師だけでなく、担任ももっと調べておくべきだ。生徒が自分で何もかも調べるというのは無責任。学校全体も、1年の時から進路・大学受験対策をして欲しかった。（3年男子）
- ・たまに中学校や専門学校に社会人の立場でお話をしに行きます。月に1回程度で、いろいろな業種の人達の話の聞いたり質問したりするのも良い形ではないかと思います。（1年女子）

【学校の受け止め方】

進学や就職に関する知識をすべての教員が十分に身につけているのが理想であると思います。ですから、担任によって進路指導の内容に差が出ないように、どのクラスであっても十分な進路指導を受けられる態勢を今以上に構築していく必要があると考えます。

生徒がすべてを独力で調べることは現実的には不可能であり、教員の適切なサポートが必要なのは当然のことです。一方で、自分の進路を主体的に考え悩み、自ら行動することで、自らの進路を切り開く強い意思をもつように指導することも大切だと考えます。そのための指導力も教員に求められていると思います。

一年次は、受験技術を磨くよりは以後の学習の土台を築くことが大切ではありますが、先を見通した進路指導を心がけるようにいたします。現在でも、一年次から適性を知り、職業を知るという観点で進路学習を展開しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

教員の進路指導力の向上のために、進路に関する校内研修を実施したり、進路指導部から各種の情報をこまめに教員に発信するよう心がけます。現在も、授業力向上のための研究授業や研修会を実施していますが、さらにその充実に努めます。

早い時期から目標を持って取り組むことが大切であり、そのために多くの業種の方に来てもらっての各種のガイダンスをきめ細かく実施して、動機付けを行うことが大切であると考えますので引き続き計画を進めてまいります。

3【生徒指導に関して】

3-1＜頭髪・服装指導について＞

- ・髪を染色した場合の帰宅指導は理解できますが、地毛が真っ黒でない場合、保護者による「地毛申請」を取るなどしていただきたいと思います。染色していないのに真っ黒に染めないといけないのは、あまり納得できません。（2年女子）
- ・確かに染色した生徒はいないように思いますが、化粧やピアスの指導ができていないと思います。一部、目につくと、生徒全体がゆるんで見えます。吹高生やし……とか、偏見な目で見られる点だと思います。徹底するなら中途半端なことはしないで、とことん指導したらいいのではないですか。（1年女子）
- ・髪の色だけではなく、衣服（制服をきちんと着る等）にも注意してほしいです。学校で、そういう約束事ができれば、子供も話を聞くと思うので……。 （1年男子）
- ・子供がリボン（制服）が欲しいと言っております。追加は可能でしょうか？（1年女子）
- ・髪の染色指導も、いきすぎている様な気がしますが……。 （1年男子）
- ・遅刻指導や服装・頭髪指導は親の躰の域であり、同じ親として残念に思います。（1年女子）
- ・校則は、このまま厳しい方でいいと思う。（1年男子）
- ・「決まり」という言葉にこだわりすぎて、生徒と先生との間に距離ができていような気がします。（すべての先生がそうとは言いませんが）時には、先生側の歩みよりも必要ではないかと思っております。（2年女子）
- ・先生が熱心で子供の気持ちに寄り添ってくれていると感じる。（1年女子）

【学校の受け止め方】

【近年の生徒指導の経緯】

本校では、平成22年度9月から頭髪強化指導を行い、現在、金髪・茶髪の生徒はいなくなりました。現在の頭髪指導は、黒く染め戻した生徒の色落ちに対する指導が中心となっています。

遅刻指導については、平成23年度の1年生から、遅刻した場合その日に即居残り1,000字書写指導を行い、平成22年度の1年生に比べ、遅刻数を3分の1程度に減らすことができました。

その指導を24年度から全学年で採用し、現在は学校全体でも23年度のさらに3分の1程度にまで遅刻数が減少しています。

携帯電話指導は、24年度から、授業中の使用に対して1回目の注意で預かり指導（1,000字の反省文指導）を実施しています。

近年、とりわけ女子生徒の化粧やスカート丈の短さ等について、PTA 実行委員会や懇談等で来校いただいた保護者の方から厳しいご意見、ご指摘をいただきます。

しかし、かなり改善されつつあるとはいえ、残念ながら本校において必要と思われる生

活面の指導（遅刻・服装・頭髪・化粧・アクセサリなど）は、依然として多岐にわたっています。また、不本意ではありますが、1日に数十人の生徒を指導することもあります。

このような状況のもと、すべての指導に一斉に取り組むことで、逆にすべての指導が中途半端な指導になりかねないというジレンマに陥っているのが現状です。もちろん、学校として現在の生徒の状況を是認しているわけではなく、現在は主に頭髪・遅刻指導に力を入れています。

頭髪・遅刻指導が定着し、落ち着いた学習環境を整えたうえで、新たな一つひとつの指導に、順次、重点的に取り組み、できる限り早急に高校生らしい節度のある身だしなみを徹底させたいと考えています。

【指導の方向性（対応）】

（現在の取り組み）

《頭髪指導》

1. カラースケールを用いた頭髪チェック後の是正指導
2. 是正対象者との約束違反による帰宅指導

《服装指導》

1. 黒・紺・ベージュ・グレー以外のセーター・カーディガン・ベストの預かり指導
2. 校内でのスカート下ジャージの預かり指導
3. 学校指定カットシャツの着用徹底指導
4. これ以外の違反服装の預かり指導
5. 放課後、校門でのブレザー着用チェック

頭髪指導においては、カラースケールを用いて、基準のぶれがないように頭髪チェックを行っています。その後、是正の対象となった生徒と頭髪指導についての話し込みを通じて、是正方法や期限などを約束させていただいています。さらに、この約束の期限を守れなかった生徒などには、帰宅を伴う是正指導も行っています。また、染髪目的ではなく、パーマやアイロンなど行動での脱色についても指導をさせていただくこともあります。

服装指導においては、温度調節としてブレザーの内にセーター・カーディガン・ベストを着用することは認めていますが指定の色以外は禁止です。また、パーカーをブレザーの内に着ることは認めていません。着用したい場合は、ブレザーの上から「防寒具」として着用し、校舎内では脱ぐことになっています。スカート下のジャージの着用も認めていません。防寒対策にはタイツ又は女子用のスラックスを利用することになっています。

制服については指導強化期間を設け、服装違反に対しては、一定期間その服の預かり指導を実施しています。

ミニスカート・化粧・アクセサリについては、まだ指導強化は行っていないですが、今後、どのような指導で対応していくことが効果的かを現在検討しています。

（今後の対応）

生活面の指導を毎日行うことで、生徒たちの自覚も徐々に高まりを見せ、生徒会執行部でも自ら遅刻撲滅や服装違反の撲滅に取り組もうとし始めており、嬉しく感じています。

しかし、まだようやく緒に就いた段階です。

学校としても、ＴＰＯを意識した高校生らしい身だしなみについて、引き続き粘り強く生徒たちを指導してまいりたいと考えていますが、社会的な風潮とも相俟って、保護者の皆様のご理解、ご協力なしにはこれらの改善は達成できません。

生徒はよく「これくらい、みんなやってる」といったことをご家庭で話すと思いますが、そんなことはありません。

また、「学校が厳しくしてくれないから、家庭でも禁止しにくい」というお話をお聞きすることもあります。これは「鶏と卵」のような関係で、どちらが先ということではなく、意識をお持ちいただいているご家庭が、学校とともに粘り強く指導させていただくことが、この悪循環を断つ最善の方法だと考えています。

くどいようですが、学校は決して生徒の好き勝手な行動を認めているわけではありません。個性は大切ですが、高校生として学校に来る際の「身だしなみ」や遅刻等の学生の本分にもとる行為につきましては、ご家庭におかれましても、お子様が家を出かけられる際、高校生としてふさわしい身だしなみかどうか、ご確認・ご指導いただくなど、さらなるご協力をお願い致します。

3-2<盗難について>

・1年の時からですが、盗難事件が多いです。3年になった今でもサイフからお金を盗まれていると子供からよく聞きます。指導は、どうなっているのでしょうか？
学校は把握しているのでしょうか？学校からそういうお知らせが来た事は、一度もありません。（3年男子）

【学校の受け止め方】

学校は「教育の場」として、何よりも安全で安心して学ぶことができる環境でなくてはなりません。ところが、今年度、何件かの盗難が起きてしまいました。盗難にあわれた生徒ならびに保護者に対しましては、心より、申し訳なく感じております。

もちろん窃盗は許すことのできない犯罪であり、早急な対策が必要だと考えています。しかし、一方で犯人を特定することは非常に難しく、万一、間違っただけで犯人扱いをしてしまった場合、取り返しのつかないことにもなりえます。

また、教育現場に警察が介入することは生徒たちの動揺を招く恐れもあり、防犯カメラにつきましても個人情報等の観点から設置することはいかなるものかと考えています。

これらのことから、現時点では、学校としては、盗難を未然に防ぐために“貴重品の自己管理”を呼び掛けているところです。

【指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

生徒の自衛の意識を高めることで被害をなくすることはできないかと考え、盗難が発生した時にはできるだけ早く全校集会を実施するよう努めました。

全校集会で生徒に話した内容は以下の通りです。

- ①人のものを盗むという行為は「犯罪」であり、絶対に許されるものではないこと。
- ②盗難の事実や詳しい状況を知らせることで注意を喚起し、他に被害がないかを確認。
- ③盗難防止のため、不必要な金銭を持ってこないこと。また、持参した場合には自分で管理する必要があるということ。

被害が出るたびに全校集会をしたことで、自分のものを自分で管理しようという意識を持って行動できる生徒も増えています。教室移動時に自分の荷物を持っている生徒も見かけるようになりました。体育の時間など自分で身につけることができない時には、教員が預かることになっています。しかしながら教員に預ける生徒は限られているのが現状です。（今後の対応）

状況がさらに悪くなるようでしたら、警察等との連携も考えざるを得ないものと認識していますが、まずは、盗難が起きない（起こせない）環境づくりに取り組みたいと考えています。

社会に出れば、生徒の皆さんも吹高在学時以上に「自分のものを自分で管理する」能力が求められます。このことも踏まえて、「大切なものは自分で管理する」ことの重要性についての意識を高めることができるよう、学校としては、引き続き、全校集会やポスターなどを通じて、盗難が起きない（起こせない）環境づくりを呼びかけていきたいと考えています。

ご家庭でも、不必要な金品を持って登校しないことや、教室移動の際には、貴重品は教室に置いたままにしないなどの声かけをお願いします。

3-3＜遅刻指導について＞

- ・遅刻指導で、遅刻は減少するかもしれないけど、指導が嫌で欠席が増えるのではないのでしょうか？（1年男子）
- ・遅刻のための居残り指導は悪くないと思いますが、そのために自転車であわてすぎる通学で事故もありうるので、その点が少し心配です。（1年男子）

【学校の受け止め方】

遅刻に対する指導に関して、様々な観点からのご意見をいただきました。

社会に出た時に、遅刻を繰り返せば信用を失うということは、大人であれば誰しも実感できていることだと思いますが、まだ実際に社会に出た経験のない生徒にとっては、実感として理解しにくいものかもしれません。

遅刻のペナルティとして1,000字の書写が妥当かどうか、またその適用の厳格さや効果等については、絶えず検討を続けていく必要がありますが、ようやく遅刻が減少し落ち着きつつある本校においては、「遅刻をしないことが当たり前」という認識が完全に定着するまで、今しばらくは、遅刻に対する実質的なペナルティが、目に見える形で課せられることが必要だと考えています。

200字の反省文は、自分の行動を言葉にして振り返る機会であり、それを媒体にして、教員と会話をします。生徒それぞれに事情があり、そのことを教員に伝えつつ、改善すべき点を確認する機会となっています。今のところ生徒の中にも、「遅刻したら1,200字」が1つの形として定着しているものと思われます。

大半の生徒にとっては、やはり書写1,000字は避けたいものであり、それがあるから、少し余裕を持って家を出る生徒がいるなどやはり効果はあるものと考えています。

しかし、ご意見としていただいているように、遅刻指導を受けたくないがために増える欠席については、学校としても懸念している部分ではあります。今後は、こういった事象に対する対応についても検討をする必要性を感じています。

ご家庭でも、始業時刻に合わせて弁当を作り、送り出すなど、日頃から多大なるご理解ご協力を賜っているところですが、時には遅刻を繰り返すことのデメリットなども話題にいただけると、生徒も社会の生きた教訓として受け止めることができ、教員からの指導とはまた違った効果があるのではないかと思います。

【指導の方向性（対応）】

（現在の取組み）

現在、教務上（記録に残る）の遅刻は3学年とも8時45分ですが、居残り指導の対象は、今年度より、全学年8時35分からとしました。朝ガク（朝SHR）を実施していますので、居残り指導の基準も全学年で8時35分に統一することができました。

遅刻の基準を8時35分としたことで、8時45分からの1時間目の授業が落ち着いた雰囲気での開始できるなど、生徒の高校卒業後を考えた時にもよい影響があると思える状況になっています。

また、遅刻への意識の高まりによって、登校を急ぐあまり、交通ルールの軽視につながるものがあっては本末転倒であり、この点には十分に留意しながら、朝の校門指導等を実施しております。

（今後の対応）

始業前の朝ガク（朝SHR）の実施は、遅刻防止に効果があるだけでなく、授業に向かう生徒の気持ちを整える意味でも極めて有効で、授業の開始もスムーズです。気持ちよく学校生活をスタートさせられるよう、一人ひとりが自覚を持って行動してほしいと考えています。

遅刻指導は、来年度も反省文200字と書写1,000字を基準として継続実施する予定です。その中で、遅刻を繰り返す生徒に対しては、累積遅刻指導の指導内容の充実を考えていく必要を感じています。より多くの教員が関わっていきながら、今まで以上に丁寧な話し込み指導と、また違った方法でのアプローチをしていくつもりです。

遅刻といっても大幅な遅刻をする生徒は少数であり、そのほとんどが10分以内の遅刻です。心の持ち方一つで変えられるような遅刻であるからこそ、なかなか改善できない現状を、変えていけるような指導方法を今後も模索していきたいと考えています。保護者の皆様におかれましても、効果的な指導法やご意見がありましたらお寄せください。

3-4＜携帯指導＞

- ・授業中でも携帯電話の電源が切られていないのは「なぜ？」と子供に聞くと、依存的になっている学生さんもいるかも、とのことでした。持ってきてもいいが、使ってはいけないという自制心を教えていくには良いことですが、先生の大変さがわかります。
(1年女子)
- ・基本的に、携帯電話はロッカーの中なりに入れ教室には持ち込まないほうが望ましい。他の学校が出来て、本校が出来ないのは残念です。(3年男子)

【学校の受け止め方】

府立高校では、原則携帯電話は持ち込み禁止とされていますが、本校では、生徒の自主性を重んじ、携帯電話を校内持ち込み可としています。授業中はもちろん使用禁止とし、電源を切って鞆の中に入れておくことを原則としています。そして、授業中の携帯電話使用はもちろんのこと、電源の切り忘れにより着信音が鳴っても預かり指導の対象としています。

預かり指導と反省文によって、授業中の携帯電話の使用は数年前に比べて大幅に減少しています。携帯電話を触っていないのに、電源の切り忘れ等によって鳴ってしまった場合、それでも預かり指導に該当するということは厳しすぎると感じられるかもしれませんが、自由には責任が伴うことをしっかりと学んでもらいたいと考えています。

電源の切り忘れにより着信音が鳴った場合、ほとんどの場合は該当の生徒から申し出がありますが、まれに申し出がなく、着信音を鳴らした生徒が不明の場合があります。その時にはクラス全体の生徒に対して、「申し出がない場合には全員で反省文を書いてもらうこと」を知らせて呼びかけをしています。それは鳴らした者に対して皆に迷惑をかけていることを理解してもらい、決してごまかすことのないようにしてもらいたいからです。その結果、ほとんどの場合には申し出てきますが、残念ながら申し出なかったこともありました。その場合にも上記のような理由で今後の影響を考えて全員に反省文を書いてもらったことがあります。

【指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

反省文を書いた生徒は、その反省文を持って何人もの先生（学年・教科担当・生徒指導部）に読んでもらって話をし、納得できない部分は文の中に書いたり、直接先生に疑問をぶついたりしながら、いろいろな人の考えを聞くことになっています。自分の中で自分がしたことを振り返って、その上で、人の意見を聞く機会を持つ意味は大きいと考えています。

（今後の対応）

自分で自分を律することができる生徒を育むことが本校のめざすところで、とりわけ高校生にとって、授業は何よりも大切にすべきものです。その大切な授業に対しては、携帯電話の管理をはじめ、生徒自身が高い意識を持って自らの責任を全うし、集中することのできる環境を作り上げていってもらいたいと考えています。

このような思いから、今後も授業中の使用はしっかりと指導し、授業の秩序を維持する

ことを最優先に考えてまいります。

3-5＜交通安全指導＞

- 雨の日のカッパ着用について、指導が行き届いていないと不満の声がありました（子供本人から）。自分はちゃんとカッパを着ているのに、カサをさして自転車登校している生徒が多く、先生があまり注意をしていないとのことでした。大変危険な行為であり、もっと厳しく指導されてはどうかと思います。（1年男子）

【学校の受け止め方】

ご指摘いただき有難うございます。学校として現状を容認しているわけではありませんが、雨の日のカッパ着用指導に重点的に取り組むところまで行けていないのが現状です。そもそも自転車を安全に運転するためには、運転に集中する必要があります。したがって、イヤホンで音楽を聴いたり、スマートフォンを操作したり、傘をさしながらの運転は認められるものではありません。大阪府道路交通規則でも禁止事項になっています。これらの交通マナーについては、年度当初に生徒への指導の時間を設けております。

一方で、学校の中にはカッパを着用してきた生徒が、濡れたカッパを干しておくのに適した場所がないのも現状であり、スペースが限られた中で環境をどう整えるかが大きな課題となっています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（今後の対策）

雨の日は公共交通機関を利用して自転車を使用しないのが安全ではありますが、やむをえず自転車を使う場合でも傘ではなく、カッパを着用して安全な自転車運転をするよう地道な指導を続けてまいります。また、今後保管場所の確保や防犯上の課題等をクリアすべく、学校として検討を行ってまいります。当面の間、各自で保管いただくことでご理解をお願いいたします。

4【主に生徒会活動に関して】

4-1 <学校行事について>

- もっと行事を増やしてほしい。(3年女子)
- 文化祭、体育祭をもっと他校に負けないくらいやってほしい。吹高が一番と言うくらい。
- 学校行事をもっと大きなものにしたい。生徒が主体的に作るものであるが準備時間が短い。(1年男子)
- 体育祭や文化祭は、もう少しテーマをきっちりと決め、学生らしいものが良いと思います。ケバケバしいお化粧をしてダンスばかりの印象があり、少しもおもしろくないです。ダンスもダラダラしていて？です。(2年女子)
- 「学校が楽しい」と、吹田高校を選んで良かったと子供から話を聞いて、親としては大変うれしく思っています。これからも、先生方のあたたかい心で、子供達を応援して頂きたいです。一つお願いがあるのですが、文化祭や体育祭など、もっと保護者参加しやすい方法があれば、いいかと思っています。毎日ありがとうございます。(1年女子)
- 修学旅行は教員のみで決めず、行き先などは生徒からアンケート等で意見を聞くべき。修学旅行は最悪だったと聞いている。(2年女子)

【学校の受け止め方】

学校生活の中で、多くの生徒が純粋に「楽しい」と感じる代表的なものは、やはり学校行事だと思います。ですから、学校行事の「数」が増えれば、楽しいことが増えるということは決して間違いではないと思います。

また、行事を通して学校生活が楽しくなることは、日ごろからの勉強にも頑張ろうとする大きな動機付けの一つにもなると思います。学校行事をより活発にするための取組みは、今後も継続していきたいと思います。

しかし、そのうえで、現在の本校において、今、本当に大切なことは「楽しさの数」の前に、まずは「楽しさの質」を上げることだと考えています。

例えば、文化祭や体育祭を実施していく上で重要な、企画・運営・準備・練習など、まずは生徒があと少し努力しなければいけない部分があるように感じています。

「自分たちで作り上げる学校行事」という意識を高く持ち、クラスや周りの生徒と協力し合いながら、一生懸命取り組む姿勢がもっと高まることで、「楽しさの質」がワンランク上がり、生徒が学校行事から得る充実度・満足度も向上するのでは、と考えています。そうなれば、自然と他校にも負けないくらいの文化祭・体育祭であると、生徒が胸を張れる日が来るのではないかと思います。

そういう意味で考えますと、今年度の体育祭は少し残念だったように思います。近年、応援団を起爆剤として、体育祭が盛り上がってきていることは事実なのですが、その盛り上がり方を勘違いしてしまう生徒が出てきているようです。過度な化粧やペイントをすることが「主たる目的」になってしまい、その結果、競技への出場を禁止した生徒がでてしまうという、残念な状況も生じました。今後は、中身を充実させるだけでなく、生徒の意識付けや取り組む姿勢を正しい方向に導くことも必要になってくると思います。

準備期間については、現在の期間で適切であると認識しております。限られた時間の中で、計画性を持って取り組むことも重要であると思います。

学校生活の中で「楽しめる何か」を願っているという生徒の気持ちは、しっかりと受け

止めたうえで、「楽しさの数」を増やすのは、その次にした方が、生徒たちの感動はより高まると思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

生徒にとって貴重な経験となる、体育祭・文化祭の質の向上に向けて、全力を尽くしています。まだまだ、改善の余地があることは十分認識しておりますが、ここ数年という期間で見たときに、間違いなく、生徒の取り組む姿勢は向上していますし、それに伴って、体育祭・文化祭の全体的な質も、向上していると自負しております。

学校としては、そういった吹田高校生の成長を心から喜ぶとともに、さらなる成長を遂げられるようにサポートしております。

（今後の対応）

今、学校では、生徒会執行部を中心とした生徒の声に耳を傾けながら、来年度に向けて学校行事の中身の改善について積極的に検討していきたいと考えています。

例えば、体育祭については、準備・運営に携わる生徒を増やし、学校行事を自分達の力で作り上げていくのだ、という意識を高められるような枠組みを作りたいと考えています。文化祭については、今年度の活動を通して明らかになった問題点を振り返り、昨年度よりもまた一步進化できるようにしていきたいと思います。

同時に、生徒には「学校行事の意味合い」や「目的」といったことについて、あらためてきっちりと説明していきたいと考えています。表面的な楽しさで満足するのではなく、吹田高校生としての目標を持ち、集団としても個としても努力をすることで、得られる達成感・・・そういう「真の楽しさ」を経験してもらえるように進めていきたいと思います。

加えて、学校生活における「学校行事」と「勉強」両方の大切さを理解してもらえるように粘り強く働きかけ、最終目標としては、学校行事と勉強をうまく関連させながら、両方ともに前向きな気持ちを持って取り組める、そういった生徒に成長してもらい、すべての学校活動の活性化につなげていきたいと考えています。

修学旅行の行先については、実施の時期やその目的などを勘案し、担当学年で十分に検討して決定しています。その際は中学校での行先を調べたり生徒の皆さんに希望を聞く機会を設けたりした学年もあります。これからも生徒の皆さんにとって、より良い修学旅行となるよう決定の方法も含めて検討を重ねてまいります。

4-2<文化祭について>

・文化祭は似た店だったり、模擬店が少ないため行列で 1 時間待ちなど、もう少し改善す

るべきだと思いました。(1年女子)

・男の子なので楽しいとは口に出して言いませんが、毎日楽しそうに学校に行ってるので、いい学校なんだと思っております。文化祭に参加しましたが、食べ物がすぐ売り切れ、すごい行列で、チケットがあまってしまいました。返金してもらえず困りました。返金できるシステムか、替えボンベなどで、もっとお店が効率よくできたらと思いました。(1年男子)

・文化祭の時、体育館内が常にさわがしいので、舞台発表をしている音声が聞こえにくいです。特に、出番前、体育館内の端で待機している人がさわがしいので、待機は出来れば体育館の外でして欲しいです。毎年思っていることです。(3年女子)

【学校の受け止め方】

金券の返金システムについては、次年度、そのシステムを導入できるような方向性で現在検討中です。

ステージ会場における待機の仕方については、以前より問題視されておりますが、別の場所で待機することは、現実的に難しいと判断しています。ひとつの理由としては、待機させるスペースを別で設けることが出来ません。本校は教室数も少なく、文化祭当日も全ての教室を使用しています。ですので、他の場所で待機させることが難しいというのが現状です。

この問題における本質は、「生徒の聞く姿勢」です。生徒が、見ているお客さんに対して気を配り、きっちりとした態度で待機することが出来るようになれば解決に近づくのではないかと思います。ただ、近年においては、見に来られるお客さんの聞く態度も悪くなってきております。とりわけ、今年度については、そのお客さんの聞く態度について目に余るような状況であったため、本校教員が急遽ステージに立ち、静かにして頂くようお願いをしました。多くの方が文化祭に足を運んで下さることは、大変ありがたいことではありますが、一方で、こういった新しい問題が生じてきているのも事実です。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

(現在の対応)

問題点について整理している段階です。

(今後の対応)

システムとして改善できる部分については、前向きに検討をすすめ、よりよい形にしていきたいと考えています。ただ、どんな場面においても「生徒の意識」が大きく関わってきます。「生徒の意識」さえ変われば解決する課題が、実はほとんどです。その「生徒の意識」の部分に対して、学校だけでなく、いかに家庭と連携してアプローチをしていけるのか、そこが重要だと思っています。

4-3＜部活動について＞

・部活動をもっと積極的に行なってほしいと思います。(2年女子)

- ・クラブ活動が、あまりに不真面目に見える。真剣にしたい生徒もいるのに、先生側の指導の仕方などが適当に見えて仕方がない！！クラブ活動の目的が知りたい！！子どもたちの大切な時間です。（１年女子）

【学校の受け止め方】

ご意見、ありがとうございます。クラブ活動の質的な面についてのご意見だと受け止めています。

クラブ活動は、強制的に学校側が参加させているものではありません。つまり、生徒が自ら入部するクラブを決め、自身の明確な意志のもとで活動を継続していくものです。ですので、入部する段階において、生徒の意識に差があることは、否めないことです。したがって、そういった意識の差が原因で、「不真面目な活動」が見受けられることもあるかと思えます。ここに書いて頂いていることは、そういった現状に対してのクラブ顧問の関わり方について、一定の不満を述べられているものと、解釈しております。

クラブ活動の目的は、生徒の人間的な成長を促すことであるとともに、学校生活をより充実したものにすることです。どのクラブもそういったことを目標に活動しております。しかし、必ずしも、全ての生徒がどのクラブに入部しても、その目的が達成できるかと言えば、それは残念ながら違います。前述させて頂きましたように、それぞれのクラブによって、クラブ部員の意識に差があります。また、教員の人事異動に伴って止む無く、クラブ顧問が交代せざるを得ない現状もあり、クラブ活動の質を継続的に担保することが困難な場合もございます。加えて、全ての教員が何らかのスポーツ等の指導に精通しているわけでもありません。いわば、「運よく」技術的な指導ができる教員がいる場合にのみ、そのクラブ活動の指導ができているというのが、現状です。したがって、スポーツ等の専門家ではないけれども、生徒にとって少しでもプラスになるよう、個々の教員が出来る範囲で指導している、というのがわれわれの出来る精一杯であることを、是非ともご理解して頂きたいと思えます。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

上述させて頂いたように、われわれ教員には「出来る範囲」に限界がございます。その「できる範囲」があるなかでも、クラブ部員のみなさんが、部活動を通して人間的に成長するとともに、学校生活をより充実したものにしたいと考えています。充実した体制という観点で申し上げますと、現在、29のクラブのうち、19のクラブにおいては専門的な指導ができる教員がおります。その他、外部指導者を招き、指導をしてもらっているクラブも多数あることを踏まえ、生徒の期待に対して、完全ではないものの、概ね応えられているものと考えています。実際、三学期にクラブ部員対象に行いました「満足度調査」においては、肯定的な回答を80%程度頂いております。

（今後の対応）

重要なことは、真剣に活動したいと考えている部員が、そう出来ない現状があった場合に、どのように解決していけばよいか、その手立てを考えることだと思います。今後の方向性としましては、クラブ顧問の「できる範囲」での指導を継続的に実施していくとともに

に、部員が主体となる「部活動の自主的な運営」をめざしていくことも、大切な考え方ではないかと思います。

学校における部活動は、地域にあるクラブチーム等とは違い、部活動を通して人間的に成長する場であると考えています。それを実現するためには、顧問の熱心な指導はもとより、部員自身が、自分の所属するクラブのことを考えながら、クラブの方針、ルール、練習メニュー、後輩の指導方法等を作っていけるようになることも重要だと考えています。単に技術的な向上だけをめざすのではなく、「自分のクラブを自分で作り上げていく」、という意識を育み、自主的なクラブ運営ができるようにしていきたいと考えています。

そのためにも、「自主的なクラブ運営」という大きな方向性を部員に伝えていくとともに、学校としてもそれをサポートできるようにしていきたいと考えております。

5【主に保健衛生に関して】

5-1 <清掃活動について>

- ・校舎内部の老朽化のせいか、学校がすごく汚れている印象があります。せっかく生徒が清掃をしようと思っても、元々が汚れているので、清掃のやりがいがなく、適当にしてしまうところがあるのではないのでしょうか？トイレ同様、校舎内、教室も、出来たら新しくリフォームしてきれいにすれば、生徒達もがんばって掃除をして学校をきれいに出来ると思います。（1年女子）
- ・土足と上ばきの通路の汚れ具合が同じです。（3年女子）
- ・今年はそうでもなかったようですが、昨年、プールの写真を見せられた時に、「こんなに汚いプールで泳がせるのか」とちょっとびっくりしました。今年も子供に聞いて、汚いと答えたら連絡させていただこうと思いましたが、今年はそうでもなかったとの事でした。細菌感染などもありますし、清潔なプールを希望します。（2年女子）
- ・先生は真面目に掃除をしているが、生徒は遊んでいるから教室はキレイにならない。こんな時は指導をしても良いんじゃないじゃありませんか？不利益を被る生徒はいるのだから。（1年男子）

【学校の受け止め方】

創立65年目を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきた本校ですが、校舎設備の老朽化が目立ってきたことは否めません。

学校では、少しでも生徒たちの生活環境を豊かなものとするため、さまざまな取り組みをしてきました。通常の清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、清掃担当の教職員と生徒による施設設備の安全点検、クラブ員と生徒会執行部、有志生徒によるクリーンキャンペーン、生徒会執行部と保健委員の生徒によるミニ・クリーンキャンペーン（校外清掃活動）等です。また、クラブ員による女子更衣室やトレーニングルーム、部室等の清掃や、教員による校内清掃活動も定期的に行ってまいりました。生徒と教職員が力を合わせたこれらの取り組みにより学校環境美化について、一定の改善はできつつあるではないかと感じています。

トイレにつきましては以前から、「清掃してもなかなかきれいにならない」、「においが取れない」との声がありました。専門業者の定期的な清掃に加え、汚れとにおい対策として平成22年度に全てのトイレの床をコーティング加工しました。以前に比べ、一定の効果はあったと感じています。また、「吹田高校にきれいなトイレを！」という生徒・保護者・教職員の長年の願いが昨年度、ついに叶い、校内でもとりわけ老朽化が目立った中央館の1階・2階・3階の3トイレの全面改装が終了し、見違えるように美くなりました。その節には、生徒代表として各クラス生徒保健委員と、保護者代表としてPTA 保健厚生委員の皆様がよりよいトイレづくりのアンケートにご協力くださり、貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。教職員も、何度も検討会議やアンケートを行い、よりよいトイレづくりに携わることができました。生徒達が「ホテルみたいできれい」「（自分の教室から）遠くてもこのトイレがいい」と、喜ぶ姿を見ることは教職員にとっても大きな喜びであります。

また、教室・廊下・通路等につきましては、日常および定期的に生徒と教職員による清掃・安全点検を行っております。その結果から、教室のカーテンのクリーニングや取り替

え、教室の床や廊下の専門業者による研磨やワックスがけ、教室と廊下の壁面の塗装塗り替え、通路の専門業者による清掃等を行っております。

やはり老朽化が目立つプールについては、プールサイドのシートやテントを順次新調する等の対応をしております。また、本校のプールは屋外プールですので、風で落ち葉等が吹き込むことがあり、プール周辺の樹木の枝払いも行っております。なお、授業や部活動で生徒がプールを使用する日は毎日、水質検査を行っております。加えて、学校薬剤師による定期プール水質検査も行っており、それらの日常・定期プール検査結果では、いずれも水質に異常はありませんでした。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

トイレ等の改修については、生徒に安全・安心な学校環境を提供する意味からも、今後もう少しずつでも着実に改善していくことが重要だと考えています。

大阪府全体の予算面の問題もあり、必ずしも確約することはできませんが、現在も大阪府教育委員会に対して行っている予算措置の要望を今後も続け、保護者の皆様とも連携しながら検討していきたいと思っております。

必ずしも、お寄せいただいたご要望に対して、直ちにお応えできる回答ではなく、心苦しい限りですが、生徒や保護者の皆様のご意見やご要望を参考にしながら、PTA活動の議題とすることを提案するなど、誠意をもって検討してまいります。

5-2＜教育相談について＞

・特に公立高校なので、新しい取組みは難しいと思いますが、学力向上や生活力を身につけてもらうために心のケアを大切にいただけると嬉しいです。（2年男子）

【学校の受け止め方】

教育相談・支援教育については、生徒の高校生活あるいは人生設計における多様なニーズや不安等に適切に答えることができるよう努めています。

担任を中心としたすべての生徒への日常的な支援体制に加え、定期的な支援会議の開催、ケースによっては関係諸機関との連携を図りながら、特別委員会等の校内組織での支援を行ってきました。また、スクールカウンセラーや支援学校教職員を講師に招いてのケース会議や職員研修、個別相談も継続して実施してきました。

近年、心身の発達に関わることで課題を有する生徒についても、関係諸機関と連携を取りながら生徒のニーズ、自己実現に向けたサポート体制の構築を図っているところです。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

生徒自らの持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談・支援教育の果たす役割は、ますます大きくなっていくものと推察されます。

おかげさまで、本校の支援体制、支援に対する教職員の意識は極めて高く、安心して相談してもらえる環境を整えています。今後もさらに、これらの実践を充実させ、生徒の皆さんが悩みをより気軽に相談でき、また、一歩進んで積極的に心身の健康を増進できるス

キルを身につけ、学校生活を充実したものとしていけるよう努力してまいります。

基本的には、これまで同様、生徒たち一人ひとりの悩みや想いを真摯に受け止め、それぞれのケースに応じたきめ細かな対応に心がけたいと考えています。

また、より多くの教職員が多様な課題を持つ生徒にしっかりと寄り添えるよう、ケース会議や職員研修、個別相談等の機会も継続して設定し、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていきたいと考えています。

加えて、社会状況の急激な変化に伴い、生徒たちが持つ課題がより複雑化する現状を踏まえ、今後もさらに、関係機関並びに保護者の皆様とも連携を深めながら、教育相談、支援教育の進化・充実に努めてまいりたいと考えています。

保護者の皆様におかれましては、今後も引き続き、お子様に関わってお悩み、お気づきのことがございましたら、お気軽に学校までご一報いただきますよう、お願いいたします。

6【主に広報活動に関して】

・ホームページがあるのなら、在校生の保護者が気軽に（メールなどで）問い合わせや相
--

談ができればいいと思います。(2年女子)

- ・補習の日程が把握できにくいので、メルマガなどに掲載して頂きたいですね。(1年男子)
- ・学校の行事予定がもう少し早くわかっているほうが助かります。1年間のおおまかな予定表があればいいのですが……。 (2年女子)
- ・アンケートの「中間の回答」(わからない)を設けてほしい。(2年女子)

【学校の受け止め方】

たくさんのご意見ありがとうございます。学校として、メルマガ・HPについては一定の評価をいただいていると認識しております。

年間行事予定はHPにて閲覧が可能です。トップページより「行事予定表」のアイコンをクリックしていただくと、おもな年間行事予定の閲覧が可能ですので、是非ご利用ください。日ごろより確認はしておりますが、日程の変更等が発生した場合などは、早急に対応させていただきます。

【来年度以降の指導の方向性(対応)】

学校としては「情報は鮮度が命」だと捉えており、日々保護者の皆様に学校の教育活動を少しでも知っていただけるよう、メルマガは週1回、HPは週1～2回程度という頻度で配信・更新させていただいております。今年度からは、メルマガの内容の充実にも努めております。大きなポイントとしては、お子様にお渡ししたおもな配布物の掲載です。これにより、「学校」と「ご家庭」の連携を図る材料のひとつとしてご活用いただいているのではないかと捉えております。

ご指摘いただいたように、補習・講習の予定に関しては「教員」と「受講する生徒」との間でしかやりとりをされていないのが現状です。保護者の方にとっては把握しにくい部分であるので、夏休みや冬休みといった長期休暇前には講習案内を掲載していきます。

また、お問い合わせの手段に関しては、いただいた内容について早急にお答えすることが第一と捉えておりますので、お電話にて対応させていただきます。

アンケートの回答方法につきましては、「中間の回答」を敢えて設けていません。学校としましては、保護者の皆様が、その項目について、どちらかといえば肯定的にお感じになられているのか、あるいは否定的なのかをお答えいただきたいと思います。そのような趣旨からですが、どうしても回答できない場合には、その項目のみ無回答にさせていただいても構いません。引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。